

JSCT2014 参加報告

JCHO 北海道病院 山口隆義

皆様、こんにちは。JCHO（ジェイコー）北海道病院の山口です。今回は、日本 CT 技術研究会(JSCT: Japanese Society of CT Technology)の第 2 回学術大会に参加して来ましたので報告します。この研究会は、「CT 技術研究を通じて放射線技術の発展に寄与すること」を目的に発足され、来年には学会になる予定です。私は、昨年の第 1 回の学術集会で演題発表をしました。今年は聴講者としての参加でしたが、昨年同様に興味深い内容が盛り沢山のプログラムでした。

Refreshers Seminar1,2では「CT における画質評価の基礎」、「CT における線量評価の基礎」についての講演があり、とても分かり易く解説されていました。一般演題は、CTの性能や基本的画質を評価する物理的評価に関する検討から、タスクベースの臨床評価を意識した画質評価に関する検討が中心でした。また、特別講演では、「X 線 CT におけるエネルギー情報と散乱線の利用」という内容で、愛知県立大学情報科学部教授の戸田尚宏先生からお話があり、とても興味深く拝聴しました。ボウタイフィルタを左右で異なる形状にしてDE情報を得るといふ発想や、散乱線を利用する発想など、まさに研究は「発想力」と、それに到達するまでの膨大な知識であるという事を改めて感じた講演でした。

CTに関する研究をされている方々にとっては、最近の研究内容を1日でリサーチ出来るので、この研究会に参加する意義は大きいと思います。これから、学会等でCT研究を積極的に行いたい若手の皆様には、お勧めの学術集会です。特に、会員だけが使用出来る「画像計測プログラム」は、MTFやSSP,NPS,TSP,タスクベースのMTF計測など、手間のかかる作業を簡単に行える優秀な計測ツールなので、迷わずゲットしましょう。

普段、CT検査に携わり日々奮闘している現場の診療放射線技師にとっては、もしかすると、ちょっと違う世界ではと感じる所もある

かもしれません。しかし、撮影方法の変更やCT装置の更新などをきっかけに検査技術の向上を考えようとする、不足しているCTに関する知識に気付く事が多いと思います。日常的に、ベーシックな情報に触れておく事で、検査プロトコルを常に見直す力が備わりますし、もしかするとそこからの「発想力」によって、新たな技術が生み出されるかもしれません。東芝CT装置を使った新たな検査を「発想」してみませんか？